

平成24年度

(2012)

教養教育科目履修の手引

(法学部・経済学部 夜間主コース)



岡山大学



このマークは、本学の創立五十周年記念事業の一つとして、デザイン等を公募の上、作成されたものです。平成 11 年（1999 年）5 月から使用を開始したこのマークは、マークデザイナー・宮崎利一氏、アートディレクター・橋ヶ谷佳正教育学研究科教授による作品です。マークは Okayama の「O」と University の「U」から形づくられ、鳥のごとく未来に向かって羽ばたき、光り輝く岡山大学の姿を表現しています。

はじめに

この「履修の手引」には、岡山大学に入学された皆さんが、教養教育科目を学ぶ上で必要な情報が記載されています。

大学では、高校時代とは違い、入学した当初から自分自身で考え、選び、行動することが求められます。大学で学ぶということは、自ら学ぶ、自主的に学ぶ態度、習慣をしっかりと身につけていくことです。

例えば、授業時間割でみると、高校ではあらかじめ時間割のほとんどが決められ、選択の余地はあまりなかったと思いますが、大学は、多くの授業科目の中から、一定のルールにのって自分の勉強したい科目を調べ、選び、届け出、確認するといった作業を自分の意思で責任を持って行わなければなりません。

岡山大学では、学部・学科・専攻ごとに「卒業に必要な単位数」が定められています。この条件を満たさないと、卒業ができなくなりますので、この「履修の手引」及び学部の「学生便覧」等を熟読した上に、各授業科目の内容が掲載された「シラバス」を活用して、納得のいく学修計画を立ててください。

掲 示 の 確 認

学生の皆さんへの連絡は、基本的に掲示によって行います。
夜間主コースに関する掲示は、法学部・経済学部の夜間主コース掲示板により行いますので、1日1回は確認するようにしてください。

昼間開講の教養教育科目については、一般教育棟 A 棟 1 階掲示板に掲示します。

教養教育科目「履修の手引・授業時間表」や「授業概要（シラバス）」は、岡山大学のホームページ（HP）でも見るすることができます。

PC から

<http://www.okayama-u.ac.jp/>

→ 「在学生・保護者の方」 → 「シラバス」

→ 「履修・成績等」 → 「教養教育履修の手引」

はじめに	3
------------	---

巻 頭

主要なスケジュール	6
平成24年度 教養教育科目 授業日程	7

1. 岡山大学における教育

1-1 岡山大学の理念・目的・目標	8
1-2 二つの大きな教育プログラム－「教養教育」と「専門教育」－	9
1-3 大学で学ぶために	10

2. 岡山大学における学び

2-1 学年暦	12
2-2 学年と学期（セメスター）	12
2-3 授業日程と授業時限	13
2-4 単位の基準	13
2-5 成績の評価	14
2-6 特別な単位の認定	16
2-6-1 入学前の既修得単位の認定	
2-6-2 放送大学の修得単位の認定	
2-6-3 外国語技能検定試験による単位の認定	
2-6-4 留学による単位の認定	
2-6-5 他の大学・高等専門学校等との単位互換協定に基づく修得単位の認定	

3 教養教育の学び

3-1 ガイダンス科目	24
3-2 主題科目	24
3-3 個別科目	24
3-4 外国語科目	26

4 授業の履修手続き

4-1 履修登録に必要なもの	28
4-2 教養教育科目授業時間表の見方	28
4-3 履修登録のしかた	29
4-4 「主題科目」の抽選について	30
4-5 履修登録のルール	31
(1) 教養教育科目授業時間表	
(2) 全学部共通の注意事項	
(3) 各科目の履修上のルール	
①ガイダンス科目 ②主題科目 ③個別科目	
(4) 他学部が開講する専門教育科目の履修について	

5 受講上の注意事項

5-1 教室	33
5-2 授業に関する連絡	33
5-3 教室変更	33
5-4 休講・補講	34
5-5 公欠・準公欠・その他の欠席	34
5-6 レポートの提出	35

6 試験及び成績の評価	
6-1 学期末試験・受験資格	36
6-2 受験心得	36
6-3 不正行為	36
6-4 受験延期（追試験）	36
6-5 成績の通知	36
7 学びのサポート	
7-1 教科書の購入方法	37
7-2 教科書の活用方法	37
7-3 大学内で自主的に学習したいとき	37
7-4 授業が分からない、授業について質問があるとき	38
7-5 外国語をもっと学習したいとき	38
7-6 授業評価アンケート	38
8 学部開講専門教育科目一覧表（専門基礎科目・専門科目）	39

（開講学部以外の学生が履修し単位を修得した場合に、教養教育科目として取り扱うもの）

巻末資料

平成24年度 教養教育科目 開講授業科目一覧	40
よくある質問	42
学生の通学が困難となる事由が発生した場合における授業等の取扱いについて	43
欠席届	46
初めて学務システムを利用する時	47
文学部・法学部・経済学部 教室配置図	76

主要なスケジュール

年間の大学の行事と入学当初の大事なスケジュールを示しています。よく確認してください。

*** 平成24年度(2012)学年暦・行事 ***

年 月 日	学 年 暦	行 事
4月 1日(日)	学年始め, 前期開始	新入生オリエンテーション ※時間・場所については,【See→「入学案内」9頁】。
4月 1日(日)～ 7日(土)	春季休業	
4月 2日(月)		新入生TOEIC-IPテスト ※時間・場所については,【See→「入学案内」10頁】。
4月 2日(月)～ 6日(金)		新入生健康診断 【See→「入学案内」11頁】。
4月 3日(火)		新入生TOEIC-IPテスト(追試) 新入生履修相談会 ※時間・場所は新入生オリエンテーション時に案内します。
4月 4日(水)		新入生主題科目抽選カード提出締切
4月 8日(日)	入学式	新入生オリエンテーション 主題科目(前期開講)抽選結果発表 英語クラス分け結果発表
4月9日(月)		前期授業開始
4月初旬～下旬		履修登録【学務システム(Web登録:学内パソコン)】
5月中旬		「種別英語」の履修希望科目登録(新入生のみ) 【学務システム(Web登録:学外パソコンからも可)】
7月下旬～8月下旬		《前期末試験》授業時間内で適宜実施
8月1日(水)～9月30日(日)	夏季休業	
8月下旬～9月下旬		主題科目抽選登録(後期開講) 【学務システム(Web登録:学外パソコンからも可)】
9月末		主題科目(後期開講)抽選結果発表
9月30日(日)	前期終了	
10月 1日(月)	後期開始	後期授業開始
10月初旬～10月下旬		履修登録【学務システム(Web登録:学内パソコン)】
12月25日(火)～ 平成25年1月7日(月)	冬季休業	
1月18日(金)		大学入試センター試験実施に伴う臨時休講
1月初旬～2月上旬		《後期末試験》授業時間内で適宜実施
3月25日(月)	学位記授与式	
3月31日(日)	後期終了, 学年終了	
3月初旬～4月初旬		主題科目抽選登録(前期開講) 【学務システム(Web登録:学外パソコンからも可)】

平成24年度

教養教育科目 授業日程

前 期								後 期										
曜日	日	月	火	水	木	金	土	曜日	日	月	火	水	木	金	土			
4月	1	2	3	4	5	6	7	1日～7日 春季休業 1日 新入生オリエンテーション 2日 TOEIC-IPテスト 3日 履修相談会 8日 入学式、新入生オリエンテーション 9日 授業開始 29日 昭和の日 30日 振替休日	10月		1	2	3	4	5	6	8日 体育の日 注:10日 月曜日の授業を行う。 22日 開学記念日	
	8	9	10	11	12	13	14			7	8	9	10	11	12	13		
	15	16	17	18	19	20	21			14	15	16	17	18	19	20		
	22	23	24	25	26	27	28			21	22	23	24	25	26	27		
	29	30								28	29	30	31					
5月			1	2	3	4	5	注:1日 月曜日の授業を行う。 注:2日 金曜日の授業を行う。 3日 憲法記念日 4日 みどりの日 5日 こどもの日	11月					1	2	3	3日 文化の日 【23日～25日 大学祭】 22日 午前:補講日 22日 午後:臨時休業(大学祭準備) 23日 勤労感謝の日 26日 全日:臨時休業(大学祭後片付け) 注:27日 月曜日の授業を行う。	
	6	7	8	9	10	11	12			4	5	6	7	8	9	10		
	13	14	15	16	17	18	19			11	12	13	14	15	16	17		
	20	21	22	23	24	25	26			18	19	20	21	[22]	23	24		
	27	28	29	30	31					25	26	27	28	29	30			
6月					1	2	16日 海の日	12月							1	23日 天皇誕生日 24日 振替休日 25日～1月7日 冬季休業		
	3	4	5	6	7	8			9	2	3	4	5	6	7		8	
	10	11	12	13	14	15			16	9	10	11	12	13	14		15	
	17	18	19	20	21	22			23	16	17	18	19	20	21		22	
	24	25	26	27	28	29			30	23	24	25	26	27	28		29	
7月	1	2	3	4	5	6	7	1日 元日 注:7日 冬期休業であるが授業を行う。 14日 成人の日 注:15日 金曜日の授業を行う。 18日 センター試験実施に伴う臨時休講 19日・20日 大学入試センター試験	1月				1	2	3	4	5	11日 建国記念の日 13日～15日 補講日 13日～3月31日 臨時休講 25日・26日 一般入試(前期日程)
	8	9	10	11	12	13	14			6	7	8	9	10	11	12		
	15	16	17	18	19	20	21			13	14	15	16	17	18	19		
	22	23	24	25	26	27	28			20	21	22	23	24	25	26		
	29	30	31							27	28	29	30	31				
8月			1	2	3	4	1日～9月30日 夏季休業 注:1日～2日は夏季休業日であるが授業を行う。 3日～4日 オープンキャンパス (学部によっては前後を含むことがある。) 6日～8日 補講日 13日～15日 夏季一斉休業	2月						1	2	12日 一般入試(後期日程) 20日 春分の日 25日 卒業式		
	5	[6]	[7]	[8]	9	10			11	3	4	5	6	7	8		9	
	12	13	14	15	16	17			18	10	11	12	[13]	[14]	[15]		16	
	19	20	21	22	23	24			25	17	18	19	20	21	22		23	
	26	27	28	29	30	31				24	25	26	27	28				
9月						1	17日 敬老の日 22日 秋分の日	3月						1	2	臨時休講		
	2	3	4	5	6	7			8	3	4	5	6	7	8		9	
	9	10	11	12	13	14			15	10	11	12	13	14	15		16	
	16	17	18	19	20	21			22	17	18	19	20	21	22		23	
	23	24	25	26	27	28			29	24	25	26	27	28	29		30	
30							31											
前期計	16	16	16	16	16			授業週数(含試験)	後期計	16	16	16	16	16		授業週数(含試験)		

5月1日を含む ↑

5月2日を含む ↑

10月10日及び11月27日を含む ↑

1月15日を含む ↑

休業日及び臨時休講を示す。

他の曜日の授業を行う日又は休業日であるが授業を行う日を示す。

1. 岡山大学における教育

1-1 岡山大学の理念・目的・目標

1. 岡山大学の理念

“高度な知の創成と的確な知の継承”

人類社会を安定的、持続的に進展させるためには、常に新たな知識基盤を構築していかねばなりません。岡山大学は、公的な知の府として、高度な知の創成（研究）と的確な知の継承（教育と社会還元）を通じて人類社会の発展に貢献します。

2. 岡山大学の目的

“人類社会の持続的進化のための新たなパラダイム構築”

岡山大学は、「自然と人間の共生」に関わる、環境、エネルギー、食料、経済、保健、安全、教育等々の困難な諸課題に対し、既存の知的体系を発展させた新たな発想の展開により問題解決に当たるといふ、人類社会の持続的進化のための新たなパラダイム構築を大学の目的とします。

このため、我が国有数の総合大学の特色を活かし、既存の学問領域を融合した総合大学院制を基盤にして、高度な研究とその研究成果に基づく充実した教育を実施します。

3. 岡山大学の目標

(1) 研究の基本的目標

岡山大学におけるあらゆる活動の源泉は、先進的かつ高度な研究の推進にあります。常に世界最高水準の研究成果を生み出すことをその主題とし、国際的に上位の研究機関となるよう指向します。

(2) 教育の基本的目標

岡山大学は、大学が要請される最重要な使命である教育活動を充実させます。これまでの高度な研究活動の成果を基礎として、学生が主体的に“知の創成”に参画し得る能力を涵養するとともに、学生同士や教職員との密接な対話や議論を通じて、個々人が豊かな人間性を醸成できるように支援し、国内外の幅広い分野において中核的に活躍し得る高い総合的能力と人格を備えた人材の育成を目的とした教育を行います。

教育理念

- ・自然と人間の共生を希求する。
- ・多様な文化・価値観を尊重する。
- ・地域と世界の発展に寄与する。

教育目標

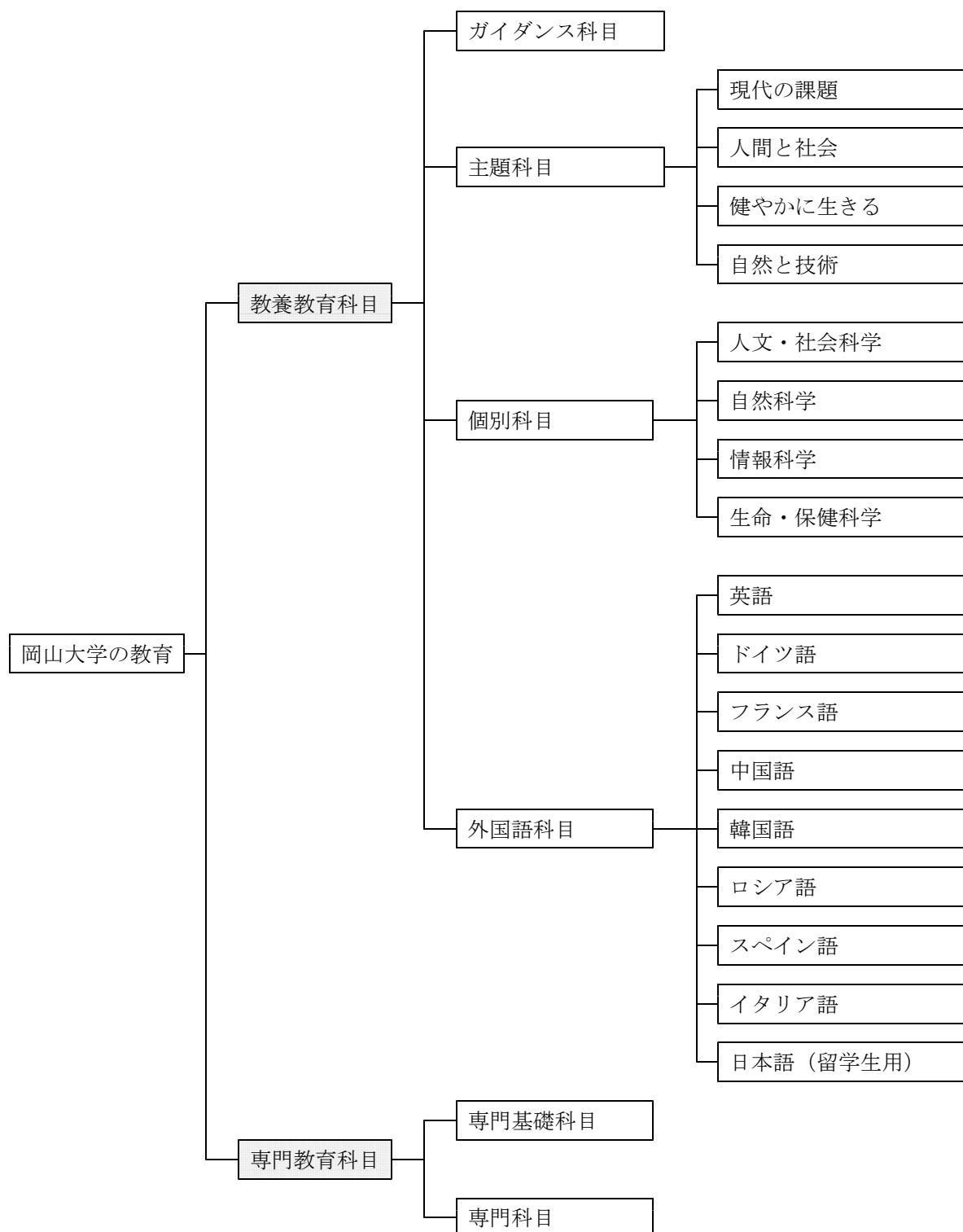
- | | |
|-------------------|--------------------|
| ・探究・創造する知性の育成 | —自ら問いかけ学ぶ教育— |
| ・豊かな教養と高度専門性の追求 | —知の体系に根ざし専門を伸ばす教育— |
| ・異文化理解に基づいた国際性の獲得 | —様々な文化・民族に親和する教育— |
| ・社会的責任を担う個の確立 | —自己と他者を認め合う教育— |

1. 岡山大学における教育

1-2 二つの大きなプログラム－「教養教育」と「専門教育」－

岡山大学の教育プログラムの1つは、所属する学部の違いを超えた共通の授業内容から成る「教養教育」と、もう1つは、それぞれの学部に固有の授業内容から構成される「専門教育」です。

岡山大学で、皆さんはまず教養教育科目を重点的に履修し、専門教育科目は主に2年次以降に履修していくことになります。



1. 岡山大学における教育

1-3 大学で学ぶために

1. 資料に目を通す

大学では、自分で授業を選び、自主的に学んでいく姿勢を持たなくてはなりません。そのため
の資料として、次のようなものが用意されています。

- ・『教養教育科目 履修の手引（法学部・経済学部夜間主コース）』（本冊子）
- ・各学部の『学生便覧』または『履修の手引』※名称は学部により異なることがあります。
- ・各学部の『授業時間割』※名称は学部により異なることがあります。
- ・『授業概要（シラバス）』※名称は学部により異なることがあります。

なお、シラバスには、次のとおり2種類のシラバスがあります。

教養教育科目 シラバス	本学のホームページから閲覧することができます。 http://www.okayama-u.ac.jp/ →「在学生・保護者の方」→「シラバス」 このWebシラバスは、必要に応じて教員が随時内容を更新しますので、 冊子のものより最新となりますので、確認するようにしてください。 また、今年度開講する全ての教養教育科目を掲載している冊子を一般 教育棟A棟2階学務企画課教養教育グループおよび各学部の教務学生担 当の窓口に備え付けています。
各学部シラバス	各学部ごとに作成したもので、専門教育科目に加え、今年度開講する 教養教育科目のうち、当該学部の学生が履修可能なもののみを抽出し、 掲載しています。ただし、学部によってはWeb上での閲覧のみとしてい る場合があります。

シラバスには、授業担当教員名の他、主題キーワード、オフィスアワー、学習目標、授業の概
要、授業計画、受講要件、教科書、参考書等、成績評価、研究活動との関連、JABEEとの関係お
よびコメントなどが記載してあります。シラバスは、皆さんが授業科目を履修する際、準備学習
等を進めるための基本となるものです。また、授業の内容を事前に把握できるので、計画的・体
系的な授業科目の選択が可能となります。

皆さんが、大学を卒業するためには、それぞれの所属する学部学科等によって決められている
教養教育科目及び専門教育科目の卒業要件単位数を満たさなければなりません。

そのために、自分で履修計画を立てなければなりません。まず自分の時間割をつくる必要があ
ります。大学では、これまでと違って自由に授業を選べるわけですから、ひとりひとり違う時間
割があることとなります。

受けてみたい授業が決まったら、履修の手続きが必要になりますが、必ず受けなければならない
授業（必修科目）などが、学部学科等によって決まっているので、注意してください。

1. 岡山大学における教育

2. 時間割をつくる

時間割と授業概要（シラバス）を見て受講する予定の授業を選びます。

3. 授業の登録

受ける授業が決まったら、学内のパソコンでWeb（ウェブ）によって履修科目を登録します。Web履修登録の入力期間は、学部により異なりますので、掲示（所属学部の掲示板）に注意してください。

4. 掲示

休講・補講・試験に関する情報などは、掲示によってお知らせします。

夜間開講の教養教育科目については、**法学部・経済学部の夜間主コース掲示板**で確認するようにしてください。

昼間開講の教養教育科目を履修する場合は、**一般教育棟A棟1階の掲示板**で確認するようにしてください。

補完的に岡山大学ホームページや学務システム（Web）に情報を掲載します。



2. 岡山大学における学び

岡山大学での学びについて少し理解できましたか？おそらく高校までとは違う印象を持たれたのではないのでしょうか。学ぶ内容が違えば方法も異なります。ここでは、大学の授業のしくみについて説明します。

2-1 学年暦

岡山大学の一年間は、高校と同じ4月から翌年3月までの**年度方式**をとっています。平成24年度の行事予定である学年暦や前期の皆さんに関する大事なスケジュールは6頁の主要なスケジュールにあります。

2-2 学年と学期（セメスター）

岡山大学では、1学年を「前期」と「後期」に2分割する**2学期制**をとっており、多くの授業は、1科目について15回行うことを基本としていて、学期ごとに完結する**セメスター制**を採用しています。このセメスター制の採用により、短期間の集中的な学習による履修効果の向上および授業科目数の増加による選択の幅の拡大等を図っています。

学 年	4月1日 ~ 3月31日（翌年）
前 期	4月1日 ~ 9月30日
後 期	10月1日 ~ 3月31日（翌年）

【法学部，経済学部】

1 年		2 年		3 年		4 年	
前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期
1セメスタ-	2セメスタ-	3セメスタ-	4セメスタ-	5セメスタ-	6セメスタ-	7セメスタ-	8セメスタ-

2. 岡山大学における学び

2-3 授業日程と授業時限

岡山大学の授業は、1科目15回を毎週1回ずつ行うことが基本です。なお、期末試験を行う場合は16回となります。

また、1回の授業時間（1時限）は、90分で1日5時限（夜間主コースは2時限）の授業が行われます。時限ごとの授業時刻は次のとおりです。

*** 授業時限（津島キャンパス） ***

1時限目	8:40 ~ 10:10
2時限目	10:25 ~ 11:55
3時限目	12:45 ~ 14:15
4時限目	14:30 ~ 16:00
5時限目	16:15 ~ 17:45

夜間主コース

6時限目	18:00 ~ 19:30
7時限目	19:40 ~ 21:10

なお、授業科目によっては、時限を通して行うものや週2回開講するもの、集中講義で行うものなどがありますので、注意してください。

2-4 単位の基準

大学での履修は単位制度を基本としています。1単位は、教員が教室等で授業を行う時間及び学生が事前・事後に教室外において準備学習・復習を行う時間の合計で標準45時間を要する教育内容をもって構成されています。ただし、単位数は、個々の授業の種類や形態によって異なります。

岡山大学の教養教育科目については、次の基準により1単位が設定されています。なお、「大学の授業による学習時間」には期末試験に要する時間を含みません。

岡山大学の教養教育科目については、次の基準により1単位が設定されています。

授業の種類・方法	大学の授業による学習時間	授業時間外の学習時間
講義	15時間	30時間
演習	15~30時間	30~15時間
実験	45時間	0時間
実習	30時間	15時間

注) 1 講義、演習および実習による授業は、1時限を2時間として取扱います。

2 実験による授業は、2時限にわたって行い、3時間として取扱います。

通常、講義科目2単位を修得するためには、1回2時間（実質90分間）の授業に15回出席し、当該授業に関する自学・自習・レポート作成等を行い、さらに試験等に合格することが必要です。

2. 岡山大学における学び

2-5 成績の評価

岡山大学ではGPA制度を導入しています。GPAとは、Grade Point Average（グレード・ポイント・アベレージ）の略で、欧米で一般的に行われている成績評価制度のことです。GPA制度の成績の表し方とGP（グレード・ポイント）の換算は次のとおりです。

評語	GP	評点（整数）	基準等
A+	4	90～100点	合格（単位を授与する。）
A	3	80～89点	
B	2	70～79点	
C	1	60～69点	
F	0	0～59点	不合格（単位を授与しない。）
W	対象外	付さない	履修登録後において、本学が別に定める履修取消期間内に、履修取消手続きを行った授業科目
認定	対象外	付さない	① 入学前の既修得単位及び転学、編入学等の既修得単位について、学部・研究科の判断により、本学における授業科目の履修により修得したものとみなし、単位を授与する場合 ② 他の大学等において履修し修得した授業科目の単位又は大学以外の教育施設等における学修について、学部・研究科の判断により、本学における授業科目の履修により修得したものとみなし単位を授与する場合で、評点により評価しがたい場合
修了	対象外	付さない	本学の開設する授業科目のうち、授業の特殊性に鑑み、評点により評価しがたいもの、若しくは一定の到達度をもって評価し単位を授与する場合
未修得	対象外	付さない	修了の評語をもって合格の評価とする授業科目で、不合格（単位を授与しない。）とする場合

2. 岡山大学における学び

1. GPA制度導入の目的

- ①成績不振の学生をいち早く発見し、アカデミック・アドバイザーの教員を中心に適切な指導を行うこと。
- ②GPAを目安にして学生に履修登録科目数の自主規制を促し、計画的な履修を促すこと。
- ③学生に対して修得単位数だけでなく、個々の単位のレベルアップを図るよう喚起すること。

2. GPAの算出方法

履修登録した科目ごとの5段階評価を、4から0までの点数（GP：Grade Point）に置き換えて単位数を掛け、その総和を履修登録単位数の合計で割って算出します。

$$\text{GPA} = \frac{(\text{履修登録した授業科目の単位数} \times \text{当該授業科目のGP}) \text{の総和}}{\text{履修登録した授業科目の単位数の合計}}$$

GPAの実際の計算方法例

科目名	単位数 (a)	評点	評語	GP (b)	a×b
〇〇学概論	2	95	A+	4	8
〇〇学要説	2	85	A	3	6
□□学演習Ⅰ	2	55	F	0	0
□□学演習Ⅱ	2	70	B	2	4
△△基礎実験	1	90	A+	4	4
計	9				22

上表の学生の場合

履修登録した授業科目の単位数の和 = 9

(履修登録した授業科目の単位数×当該授業科目のGP)の和 = 22

$$\text{GPA} = 22 \div 9 = \underline{2.44}$$

3. GPAの対象とならない科目

- ・評点を示さず、認定または修了によって単位を取得できる科目
- ・岡山大学以外で修得した科目を単位として認めたもの
- ・各学部によって定められた期間に履修取り消しの手続きを行った科目

4. 履修登録取消制度とは

この制度は、一旦履修登録した科目を取り消す制度で、履修登録をして授業に出たけれども

- ①授業の内容が自分が勉強したいものと違っていた
- ②授業に対する知識が不足していることに気づいた
- ③履修科目数を減らしたい

などといった理由から**履修を取り消すことができる制度**です。履修取消の手続きは、各学部の教務学生担当窓口で行ってください。

ただし、この履修取消期間内に手続きを怠り、自ら履修を放棄した場合は、F評価（GP=0）となり、GPAが算出されるので注意してください。

2. 岡山大学における学び

2-6 特別な単位の認定

2-6-1 入学前の既修得単位の認定

下記の者については、大学・短大等における既修得単位のうち、30単位まで認定されることがあります。なお、岡山大学の卒業生・中途退学者に対しては、各学部で定めた単位を上限として既修得単位が認められています。また、一部の学部・学科では、専門教育科目の既修得単位についても認めていますので、これらについては各学部の教務学生担当窓口で確認してください。

1. 大学または短期大学を卒業あるいは中途大学した者で、新たに第1年次に入学した者
2. 編入学した者

2-6-2 放送大学の修得単位の認定

本学が指定した放送大学の開設科目を修得した場合、単位の認定が認められることがあります。詳細については所属学部の学生便覧を参照してください。

2-6-3 外国語技能検定試験による単位の認定

外国語技能検定試験の成績により外国語科目の単位が別表のとおり認定されます。該当する検定試験に合格、あるいは所定の得点に達した場合に、単位の認定が認められています。ただし、これらの検定試験による単位の認定は1つの外国語につき8単位までとします。

2-6-4 留学による単位の認定

岡山大学交換留学プログラム（EPOK）など、本学との交流協定に基づき外国の大学に留学した場合には、留学先大学での修得単位を本学の修得単位として認定されます。詳細については各学部の教務学生担当窓口で確認してください。

2-6-5 他の大学・高等専門学校等との単位互換協定に基づく修得単位の認定

本学との単位互換協定に基づき、他大学や高等専門学校専攻科等の授業科目を履修した場合には、他大学等で修得した単位が本学での修得単位として認定されることがあります。

岡山大学では、岡山県内の大学で構成する「大学コンソーシアム岡山」と「岡山オルガノン」の単位互換協定に参加しており、また、津山工業高等専門学校とも単位互換協定を締結しています。これらの単位互換制度については、前期は4月第1週頃、後期は7月から9月中旬頃に履修生の募集を行います。募集時期等の詳細については、掲示等でお知らせします。

その他の大学等についても、協定に基づき単位を認定するものがあります。詳細については各学部の教務学生担当窓口で確認してください。

認定については、転学、編入学等の場合を除き、本学において修得した単位以外のものについては、合わせて60単位を超えないものとします。

外国語技能検定試験による単位の認定（平成24年度以降入学者適用）

科目	認定の対象とする外部検定試験等	合格基準	認定する授業科目・単位数
英語	【英語関係Ⅰ】 Test of English for International Communication (TOEIC, IPを含む)	500～645点 (OT3)	別表第1附表-1の③から⑥の中より選択 2単位
		650～795点 (OT2)	別表第1附表-1の③から⑥の中より選択 4単位
	実用英語技能検定 (英検) 国際連合公用語・英語検定試験 (国連英検) Test of English as a Foreign Language (TOEFL・PBT, ITPを含む) Test of English as a Foreign Language (TOEFL・CBT) Test of English as a Foreign Language (TOEFL・iBT)	準1級	別表第1附表-2の①から⑥の中より 選択 4単位
		B級	
		500点以上	
		173点以上	
【英語関係Ⅱ】 Test of English for International Communication (TOEIC, IPを含む)	800点以上 (OT1)	英語（ネイティブ） 2単位 及び 別表第1附表-1の③から⑥の中より選択 4単位	
	実用英語技能検定 (英検) 国際連合公用語・英語検定試験 (国連英検) Test of English as a Foreign Language (TOEFL・PBT, ITPを含む) Test of English as a Foreign Language (TOEFL・CBT) Test of English as a Foreign Language (TOEFL・iBT)	1級	別表第1附表-2の①から⑥の中より 選択 8単位
A級			
550点以上			
213点以上			
ドイツ語	ドイツ語技能検定試験 (独検)	5級	ドイツ語初級Ⅰ（文法）又は ドイツ語初級Ⅰ（読本） 2単位
		4級	ドイツ語初級Ⅰ（文法） ドイツ語初級Ⅰ（読本） ドイツ語初級Ⅱ（文法） ドイツ語初級Ⅱ（読本） ドイツ語初級Ⅰ（総合） } 4単位
		3級以上	ドイツ語初級Ⅰ（文法） ドイツ語初級Ⅰ（読本） ドイツ語初級Ⅱ（文法） ドイツ語初級Ⅱ（読本） ドイツ語初級Ⅰ（総合） ドイツ語初級Ⅱ（総合） ドイツ語中級 } 8単位
フランス語	実用フランス語技能検定試験 (仏検)	5級	フランス語初級Ⅰ（文法）又は フランス語初級Ⅰ（読本） 2単位
		4級	フランス語初級Ⅰ（文法） フランス語初級Ⅰ（読本） フランス語初級Ⅱ（文法） フランス語初級Ⅱ（読本） フランス語初級Ⅰ（総合） } 4単位
		3級以上	フランス語初級Ⅰ（文法） フランス語初級Ⅰ（読本） フランス語初級Ⅱ（文法） フランス語初級Ⅱ（読本） フランス語初級Ⅰ（総合） フランス語初級Ⅱ（総合） フランス語中級 } 8単位

外国語技能検定試験による単位の認定（平成24年度以降入学者適用）

科目	認定の対象とする外部検定試験等	合格基準	認定する授業科目・単位数
中国語	漢語水平考試（HSK） （筆記試験のみ）	1級	中国語初級Ⅰ（文法） 又は 中国語初級Ⅰ（読本） 2単位
		2級	中国語初級Ⅰ（文法） 中国語初級Ⅰ（読本） 中国語初級Ⅱ（文法） 中国語初級Ⅱ（読本） } 4単位
		3級以上	中国語初級Ⅰ（文法） 中国語初級Ⅰ（読本） 中国語初級Ⅱ（文法） 中国語初級Ⅱ（読本） 中国語中級 } 8単位
韓国語	韓国語能力試験	1級	韓国語初級Ⅰ（文法） 韓国語初級Ⅰ（読本） 韓国語初級Ⅱ（文法） 韓国語初級Ⅱ（読本） 韓国語初級Ⅰ（総合） } 4単位
		2級以上	韓国語初級Ⅰ（文法） 韓国語初級Ⅰ（読本） 韓国語初級Ⅱ（文法） 韓国語初級Ⅱ（読本） 韓国語初級Ⅰ（総合） 韓国語初級Ⅱ（総合） 韓国語中級 } 8単位
スペイン語	スペイン語技能検定	6級	スペイン語初級Ⅰ（文法） 又は スペイン語初級Ⅰ（読本） 2単位
		5級	スペイン語初級Ⅰ（文法） スペイン語初級Ⅰ（読本） スペイン語初級Ⅱ（文法） スペイン語初級Ⅱ（読本） } 4単位
		4級以上	スペイン語初級Ⅰ（文法） スペイン語初級Ⅰ（読本） スペイン語初級Ⅱ（文法） スペイン語初級Ⅱ（読本） スペイン語中級 } 8単位
イタリア語	実用イタリア語検定	5級	イタリア語初級Ⅰ（文法） 又は イタリア語初級Ⅰ（読本） 2単位
		4級	イタリア語初級Ⅰ（文法） イタリア語初級Ⅰ（読本） イタリア語初級Ⅱ（文法） イタリア語初級Ⅱ（読本） } 4単位
		3級以上	イタリア語初級Ⅰ（文法） イタリア語初級Ⅰ（読本） イタリア語初級Ⅱ（文法） イタリア語初級Ⅱ（読本） イタリア語中級 } 8単位

- 備考 1 成績の取り扱いは「認定」とする。
 2 外部検定試験等による単位認定は、一外国語につき8単位を限度とする。
 3 英語に関しては、【英語関係Ⅰ】と【英語関係Ⅱ】は重複して単位認定の対象とする。
 4 外部検定試験等による単位認定は、同一科目名の繰り返し履修が可能な授業科目を除いて、一つの授業科目について1回限りとする。

別表第1附表-1 (平成24年度以降入学者適用)

項番	授業科目名	備考
①	経済実用英語 英語 (工学部)	<ul style="list-style-type: none"> ・経済学部についてはOT1, OT2及びOT3 (500点以上) の認定対象科目に含める ・工学部についてはOT1 (800点以上) の認定対象科目に含める
②	英語 (ネイティブ)	<ul style="list-style-type: none"> ・薬学部についてはOT2 (650点~795点) の認定対象科目に含める ・工学部についてはOT2 (650点~795点) の認定対象科目に含める
③	英語 (オラコン)	OT1 OT2 OT3
④	英語 (作文・文法)	
⑤	英語 (読解)	
⑥	英語 (検定)	

別表第1附表-2 (平成24年度以降入学者適用)

項番	授業科目名
①	英語 (文学部) 英語 (教育学部) 英語 (法学部) 経済実用英語 英語 (理学部) 英語 (基礎医用英語) 英語 (工学部) 英語 (環境理工1) 英語 (環境理工2) 英語 (環境理工3) 英語 (環境理工4) 英語 (MPコース)
②	英語 (ネイティブ)
③	英語 (オラコン)
④	英語 (作文・文法)
⑤	英語 (読解)
⑥	英語 (検定)

外国語技能検定試験による単位の認定（平成20年度～平成23年度入学者適用）

科目	認定の対象とする外部検定試験等	合格基準	認定する授業科目・単位数
英語	【英語関係Ⅰ】 Test of English for International Communication (TOEIC, IPを含む)	470～585点 (OT3)	別表第2附表-1の③から⑥の中より選択 2単位
		590～725点 (OT2)	別表第2附表-1の③から⑥の中より選択 4単位
	実用英語技能検定 (英検) 国際連合公用語・英語検定試験 (国連英検) Test of English as a Foreign Language (TOEFL・PBT, ITPを含む) Test of English as a Foreign Language (TOEFL・CBT) Test of English as a Foreign Language (TOEFL・iBT)	準1級	別表第2附表-2の①から⑥の中より 選択 4単位
		B級	
		500点以上	
		173点以上	
【英語関係Ⅱ】 Test of English for International Communication (TOEIC, IPを含む)	730点以上 (OT1)	英語（ネイティブ） 2単位 及び 別表第2附表-1の③から⑥の中より選択 4単位	
	実用英語技能検定 (英検) 国際連合公用語・英語検定試験 (国連英検) Test of English as a Foreign Language (TOEFL・PBT, ITPを含む) Test of English as a Foreign Language (TOEFL・CBT) Test of English as a Foreign Language (TOEFL・iBT)	1級	別表第2附表-2の①から⑥の中より 選択 8単位
A級			
550点以上			
213点以上			
ドイツ語	ドイツ語技能検定試験 (独検)	5級	ドイツ語初級Ⅰ（文法）又は ドイツ語初級Ⅰ（読本） 2単位
		4級	ドイツ語初級Ⅰ（文法） ドイツ語初級Ⅰ（読本） ドイツ語初級Ⅱ（文法） ドイツ語初級Ⅱ（読本） ドイツ語初級Ⅰ（総合） } 4単位
		3級以上	ドイツ語初級Ⅰ（文法） ドイツ語初級Ⅰ（読本） ドイツ語初級Ⅱ（文法） ドイツ語初級Ⅱ（読本） ドイツ語初級Ⅰ（総合） ドイツ語初級Ⅱ（総合） ドイツ語中級 } 8単位
フランス語	実用フランス語技能検定試験 (仏検)	5級	フランス語初級Ⅰ（文法）又は フランス語初級Ⅰ（読本） 2単位
		4級	フランス語初級Ⅰ（文法） フランス語初級Ⅰ（読本） フランス語初級Ⅱ（文法） フランス語初級Ⅱ（読本） フランス語初級Ⅰ（総合） } 4単位
		3級以上	フランス語初級Ⅰ（文法） フランス語初級Ⅰ（読本） フランス語初級Ⅱ（文法） フランス語初級Ⅱ（読本） フランス語初級Ⅰ（総合） フランス語初級Ⅱ（総合） フランス語中級 } 8単位

外国語技能検定試験による単位の認定（平成20年度～平成23年度入学者適用）

科目	認定の対象とする外部検定試験等	合格基準	認定する授業科目・単位数
中国語	漢語水平考試（HSK） （筆記試験のみ）	1級	中国語初級Ⅰ（文法） 又は 中国語初級Ⅰ（読本） 2単位
		2級	中国語初級Ⅰ（文法） 中国語初級Ⅰ（読本） 中国語初級Ⅱ（文法） 中国語初級Ⅱ（読本） } 4単位
		3級以上	中国語初級Ⅰ（文法） 中国語初級Ⅰ（読本） 中国語初級Ⅱ（文法） 中国語初級Ⅱ（読本） 中国語中級 } 8単位
韓国語	韓国語能力試験	1級	韓国語初級Ⅰ（文法） 韓国語初級Ⅰ（読本） 韓国語初級Ⅱ（文法） 韓国語初級Ⅱ（読本） 韓国語初級Ⅰ（総合） } 4単位
		2級以上	韓国語初級Ⅰ（文法） 韓国語初級Ⅰ（読本） 韓国語初級Ⅱ（文法） 韓国語初級Ⅱ（読本） 韓国語初級Ⅰ（総合） 韓国語初級Ⅱ（総合） 韓国語中級 } 8単位
スペイン語	スペイン語技能検定	6級	スペイン語初級Ⅰ（文法） 又は スペイン語初級Ⅰ（読本） 2単位
		5級	スペイン語初級Ⅰ（文法） スペイン語初級Ⅰ（読本） スペイン語初級Ⅱ（文法） スペイン語初級Ⅱ（読本） } 4単位
		4級以上	スペイン語初級Ⅰ（文法） スペイン語初級Ⅰ（読本） スペイン語初級Ⅱ（文法） スペイン語初級Ⅱ（読本） スペイン語中級 } 8単位
イタリア語	実用イタリア語検定	5級	イタリア語初級Ⅰ（文法） 又は イタリア語初級Ⅰ（読本） 2単位
		4級	イタリア語初級Ⅰ（文法） イタリア語初級Ⅰ（読本） イタリア語初級Ⅱ（文法） イタリア語初級Ⅱ（読本） } 4単位
		3級以上	イタリア語初級Ⅰ（文法） イタリア語初級Ⅰ（読本） イタリア語初級Ⅱ（文法） イタリア語初級Ⅱ（読本） イタリア語中級 } 8単位

- 備考 1 成績の取り扱いは「認定」とする。
 2 外部検定試験等による単位認定は、一外国語につき8単位を限度とする。
 3 英語に関しては、【英語関係Ⅰ】と【英語関係Ⅱ】は重複して単位認定の対象とする。
 4 外部検定試験等による単位認定は、同一科目名の繰り返し履修が可能な授業科目を除いて、一つの授業科目について1回限りとする。

別表第2附表-1 (平成20年度~平成23年度入学者適用)

項番	授業科目名	備考
①	経済実用英語 英語 (工学部)	<ul style="list-style-type: none"> ・経済学部についてはOT1, OT2及びOT3 (470点以上) の認定対象科目に含める ・工学部についてはOT1 (730点以上) の認定対象科目に含める
②	英語 (ネイティブ)	<ul style="list-style-type: none"> ・薬学部についてはOT2 (590点~725点) の認定対象科目に含める ・工学部についてはOT2 (590点~725点) の認定対象科目に含める
③	英語 (オラコン)	OT1 OT2 OT3
④	英語 (作文・文法)	
⑤	英語 (読解)	
⑥	英語 (検定)	

別表第2附表-2 (平成20年度~平成23年度入学者適用)

項番	授業科目名
①	英語 (文学部) 英語 (教育学部) 英語 (法学部) 経済実用英語 英語 (理学部) 英語 (基礎医用英語) 英語 (工学部) 英語 (環境理工1) 英語 (環境理工2) 英語 (環境理工3) 英語 (環境理工4) 英語 (MPコース)
②	英語 (ネイティブ)
③	英語 (オラコン)
④	英語 (作文・文法)
⑤	英語 (読解)
⑥	英語 (検定)

3. 教養教育の学び

教養教育科目では、皆さんが自ら考え行動するために必要な知の基本を培うことに重点が置かれます。そのために、次のような科目群が設定されています。

教養教育科目では、開設されている授業科目を4つの科目群（ガイダンス科目、主題科目、個別科目、外国語科目）に分けています。それぞれの科目群の中に各授業科目があります。

学生の皆さんは、所属する学部学科（課程）によって定められている履修要件に従って、それぞれの科目群から、授業科目を選んで履修し卒業に必要な単位を満たす必要があります。



3. 教養教育の学び

3-1 ガイダンス科目

ガイダンス科目は、皆さんが大学で主体的かつ能動的に学ために必要なスタディ・スキルを実践を通して学習します。また、グループ学習を通してコミュニケーションについても学びます。

ガイダンス科目は、各学部あるいは学科・課程・コース単位に当該学部所属学生を対象として開講するもので、他学部学生は履修できません。

3-2 主題科目

教養教育の中核をなす主題に沿って、知および人間の存在に関わる基本的な問題を総合的に学びます。「現代の課題」、「人間と社会」、「健やかに生きる」及び「自然と技術」の4つの主題（テーマ）によって構成され、それぞれの主題ごとに複数の授業科目を開講しています。

各学部学科等において定められた卒業要件に従って、履修する授業科目を選択してください。

現代の課題：各学問分野における先端的領域・分野，あるいは事物・事象についての現代的課題に焦点をあてて考察する。

—— キーワード ——
論理，真理，パラダイムの転換，知の創造，問題の解決

人間と社会：自己とは何か，また他者とどのような関係が成り立つのかを探求し，人間相互の関係において形成される社会の仕組みや文化について考察する。

—— キーワード ——
自己と他者，文化，芸術，宗教，歴史，法，政治，経済，国際関係

健やかに生きる：長寿社会を迎えて，心身共に健康を保ちながら，人間社会の相互関係の中でよりよく生きていくあり方について考察する。

—— キーワード ——
衣食住，生と死，医療，生命倫理，生命科学，保健，スポーツ，福祉

自然と技術：地球環境の仕組みを知り，人間が作り出す技術を自然との共生を図りながら，より安全な生活を実現し，これを持続させる方策について考察する。

—— キーワード ——
地域環境，科学技術，資源，産業，環境問題，技術と倫理，食料，人口

3-3 個別科目

個別の学問分野の基礎知識や技能を，非専門の一般化した観点から学びます。

「人文・社会科学」，「自然科学」，「生命・保健科学」，「情報科学」で構成されています。

「人文・社会科学」

人文・社会科学関連の授業科目で，授業時間表及びシラバスで指定された時間帯で履修することができます。

3. 教養教育の学び

「自然科学」

自然科学関連の授業科目で、授業時間表及びシラバスで指定された時間帯で履修することができます。

「生命・保健科学」

生命・保健科学関連の授業科目で、授業時間表及びシラバスで指定された時間帯で履修することができます。

シラバスの科目区分欄に「個別科目（生命・保健科学）」と表記されています。講義科目と実技科目があります。

(1) 健康・スポーツ科学

前期または後期の通常時間帯に開講する講義科目です。

例外として、通年で水曜日の18時30分から不定期に開講する授業があります。

(2) スポーツ実習A ※同一科目の繰り返し履修可

前期または後期の通常時間帯に開講する実技科目です。

(3) スポーツ実習B ※同一科目の繰り返し履修可

集中授業形式で実施する実技科目です。

スノーケリング&体験・ダイビングは、前期の集中授業として全学部を対象に開講します。

スノーボードは、後期の集中授業として全学部を対象に開講します。

各授業とも事前に履修者の抽選を行いますので、履修希望者はシラバス及び掲示に注意してください。

(4) スポーツ実習D ※同一科目の繰り返し履修可

スポーツ系部活・サークル等においてスポーツ活動を週2回以上行っている学生が対象です。科学的トレーニング法や理論について学び、スポーツトレーニングノートを用いて練習やトレーニングを記録し、その内容等について話し合います。

履修希望者はシラバス及び掲示に注意し、オリエンテーションに必ず出席してください。

(5) スポーツ実習E ※同一科目の繰り返し履修可

スポーツ・イベントやスポーツ教室の企画、運営、評価を体験し、他者のスポーツ活動の機会を生み出し、支える意義と方法を学ぶ授業です。原則として、岡大生あるいは学外者対象のイベント・教室を開催する必要があります（サークル等で従来行っている教室形式のイベントでも可。その他、スポーツ教育センターで随時相談を受け付けています）。

後期集中での履修手続きになりますが、教室開催の時期によっては前期に活動する必要があります。ついては履修を考えている人は5月末までにスポーツ教育センターに相談に来てください。

(6) スポーツ実習F ※同一科目の繰り返し履修可

スポーツ・ボランティアやスポーツ指導の体験を通じて、他の人のスポーツ実践を支える活動の意義と方法を知る授業です。ボランティアや指導に際しては、計画を立てながら、活動記録を残してもらいます。活動の場は次のようなところを用意しています。

- ・地域スポーツクラブにおける子どもたちのプレイ・リーダーとしての活動
- ・中学校等における運動部活動指導サポート（関わり方は相手校との調整をして決定します）
- ・その他、自分で見つけてきたスポーツ・ボランティア、スポーツ指導の機会

後期集中での履修手続きになりますが、活動は無理のないスケジュールで継続的に行う必要があります。ついては履修を考えている人は5月末までにスポーツ教育センターに相談に来てください。

「情報科学」

「情報処理入門（情報機器の操作を含む）」の履修にあたっては、履修希望者が多い場合、別途履修指定を行う場合があります。履修希望者は、掲示による指示に注意してください。

3. 教養教育の学び

3-4 外国語科目

「英語」

英語には、学部英語、英語（ネイティブ）、種別英語、基礎英語、プレ上級英語、上級英語があり、各学部学科の卒業要件に従って履修することになります。

(1) 学部教員が担当する英語

この授業は、所属する学部・学科対象の授業を履修してください。再履修の場合も同様です。

[英語（法学部）]、 [経済実用英語]

(2) 英語（ネイティブ）

英語（ネイティブ）は、1年次に開講されます。ネイティブスピーカーが英語のみで行う授業で、英語コミュニケーション能力を身につける機会を提供します。クラス分けを行い、別途掲示により指示します。指定されたクラスを変更することはできません。

単位未修得による再履修は、授業時間割及びシラバスの指示に基づき、希望する科目の担当教員の履修許可を受けて履修してください。

(3) 種別英語

種別英語は、英語教員が担当する授業で、2年次に開講され、4種別があります。

一度履修し、単位未修得となった場合の再履修は、授業時間割及びシラバスの指示に基づき、希望する科目の担当教員の履修許可を受けて履修してください。なお、前期に単位未修得となった場合は、種別にかかわらず後期に履修することはできませんので、翌年度以降に再履修してください。

授業科目名	授業概要
英語（オラコン）	英語のオーラルコミュニケーション（リスニング、スピーキング）能力を伸ばすことを目的とします。ディクテーション、コンプリヘンション、ディベート、ディスカッション等の幅広い内容がありうる。教材としては、テレビ・ラジオのニュース、映画等も含まれます。
英語（作文・文法）	既習の文法事項を復習し、定着させつつ、英語による表現能力の向上をはかることを目的とします。 論文、エッセイ、手紙、E-mail等の書き方から日常会話に近い口語的表現の指導までが含まれます。
英語（読解）	人文分野、社会分野及び自然分野の教材を用いて、英語を読む能力を磨くことを目的とします。教材としては、言語、歴史、異文化理解、社会科学、自然科学等に関するエッセイやインターネット上の情報、あるいは新聞、雑誌等の時事英語、科学技術英語や医療英語の教科書等も含まれます。
英語（検定）	実用英語検定、TOEIC、TOEFL等、外部検定試験に合わせた練習を行い、実用的な英語力の養成を目的とします。教材としては、これらの試験に対応した問題集等も含まれます。

(4) 基礎英語 ※ 同一名科目の繰り返し履修可

基礎英語は、大学入学までの英語学習時間が不足した学生のための授業です。

「修了」の評語をもって単位を授与し、卒業要件単位としては算入されません。

(5) プレ上級英語、上級英語 ※ 同一名科目の繰り返し履修可

上級英語は、学力はあるがもう一度英語を学び直したい学生を含め、ステップアップを目指す学生のために発展的な内容を教えることをねらいとしています。

履修を希望する学生は、必ず最初の授業に出席し、担当教員から履修の許可を受けてください。

3. 教養教育の学び

「初修外国語」

初めての外国語では、7つの言語が開講されていますので、関心に応じて履修してください。
「韓国語」、「ロシア語」、「スペイン語」、「イタリア語」は、昼間開講です。

ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語、ロシア語、スペイン語、イタリア語

■[夜間主コース時間帯開講の初修外国語(ドイツ語, フランス語, 中国語)]

(1) 初級

初めて履修する場合は、授業時間表の指定及びシラバスの指示に基づいて、前期と後期を通じて同一科目・時限・担当教員の授業科目（前期＝初級Ⅰ，後期＝初級Ⅱ）を履修してください。

(2) 中級 ※ 同一名科目の繰り返し履修可

1年次生でも、授業担当教員と相談の上、履修することができます。

(3) 留意事項

履修を希望する者は、最初の授業に出席して、担当教員から履修の許可を受けてください。

■[昼間時間帯開講の初修外国語(韓国語, ロシア語, スペイン語, イタリア語)]

(1) 初級

ア. 初めて履修する場合は、教養教育科目授業時間表の「履修対象の学部、学科等」欄およびシラバスの指示に基づき、前期と後期を通じて同一科目・時限・担当教員の授業科目（前期＝初級Ⅰ，後期＝初級Ⅱ）を履修してください。

イ. 再履修（前期又は後期のいずれか一方が未修得）の場合には、前期が未修得の場合は、前期（初級Ⅰ），後期が未修得なら後期（初級Ⅱ）を履修してください。

ウ. 韓国語初級については、火曜4限(対象学部：全学部)と木曜4限(同)に、集中的に学ぶ前期週2回セット、後期週2回セットの「総合」の2つのタイプの授業が設けられています。どちらかを選択してください。

(2) 中級 ※ 同一名科目の繰り返し履修可

1年次生でも、授業担当教員と相談の上、履修することができます。

(3) 留意事項

履修を希望する者は、最初の授業に出席して、担当教員から履修の許可を受けてください。

4. 授業の履修手続き

大学の授業を受講するためには、「履修登録」の手続きを行う必要があります。「この授業科目をうけますよ。」という意思表示する手続きのことです。高校では決められた時間割どおりに学習しますが、大学では、皆さんの意思で、学習したい授業科目を選択できる「選択科目」があり、一定の範囲の自由度があります。もちろん、卒業や資格取得にはこの授業科目の単位が絶対必要です、という「必修科目」がありますから、注意が必要です。

また、履修に際しては、いろいろなルールがあります。以下の説明をよく読んで、皆さん自身の責任で履修の制度を確認し、学習目的に沿った授業科目を選択してください。履修制度の勘違いや、登録漏れなどによって、卒業や進級ができなかったり、卒業期が延びることもありますから気をつけてください。

履修登録は、各学期の授業開始時に、学務システム（Web）から行います。

4-1 履修登録に必要なもの

- 岡大ID及びパスワード（入学時に大学から配布）
- 授業時間表
- シラバス

4-2 教養教育科目 授業時間表の見方

時限	科目区分	授業科目	講義番号	担当教員	履修対象の学部・学科等	教室
					24年度入学者	
1	主題科目（現代の課題）		914012	〇〇 〇〇	Bグループ（文・法・経・工・MP）	A34
	外国語科目		914051	△△ △△	文（1-90）	B31
	個別科目		914052	□□ □□	全	A32

↓
↓
↓

2

1

3

1 学生番号 （ ）内の数字は、学生番号を省略して記載しています。

学生番号とは学生個人を表す番号で、学生証に8桁で表されています。出席カード、レポート、試験の答案など、重要な書類の提出の際に必要となりますので、学生証は常に携帯し、学生番号も間違いのないように記憶しておいてください。

学生番号の構成は次のとおりです。

【法学部法学科夜間主コース501番の学生の場合】

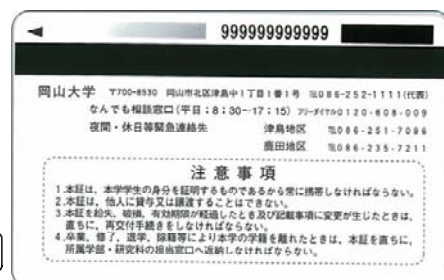
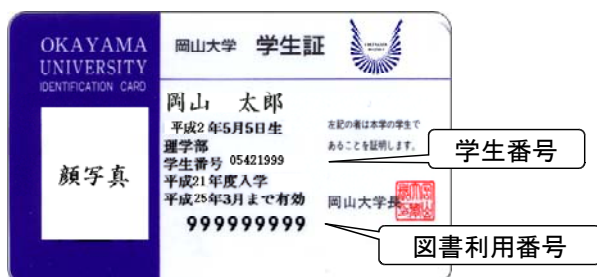
学部コード 元号コード 入学年度 一連番号
 (2桁) (1桁) (2桁) (3桁)

0 | 3

4

2 | 4

5 | 0 | 1



4. 授業の履修手続き

【学部コード】

学 部	学部コード
法学部	03
経済学部	04

2 講義番号

6桁の数字が講義番号です。授業科目を履修登録する際に使用する番号になります。

3 教室

夜間に開講する授業は、文学部・法学部・経済学部講義棟で行います。

昼間に開講する授業は、一般教育棟ほかで行います。授業の開講されている教室は省略した名称で表示されます。

場所は事前に確認してから授業に行くようにしてください。

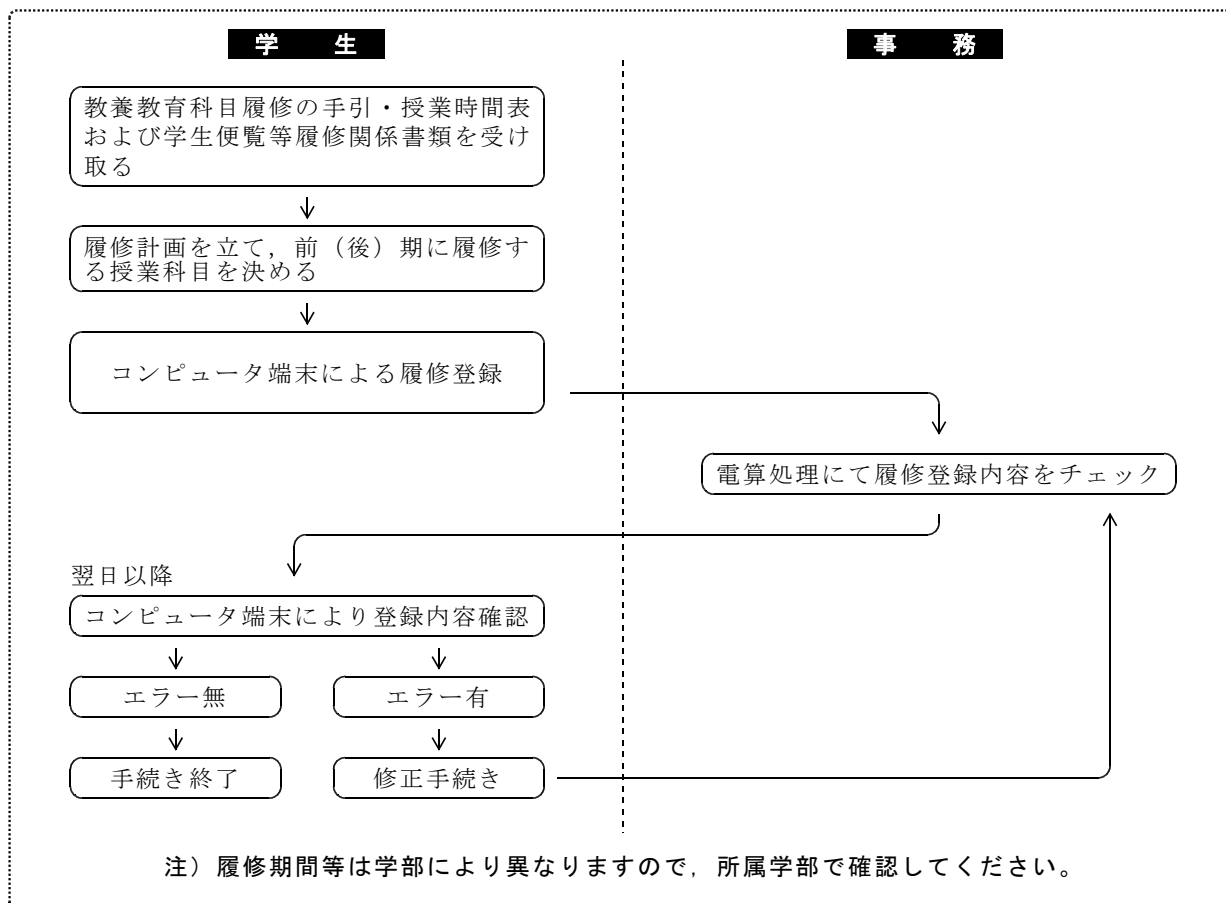
4-3 履修登録のしかた

皆さんは、各自の履修計画に基づいて、各期（前期、後期）ごとに履修しようとする授業科目を、皆さん自身が、岡山大学内に設置されたパソコンを利用して「履修登録」を行うことになります。

履修登録のしかたについては、「初めて学務システムを利用するとき」【See→47頁】で確認してください。

入力期間は、所属学部で異なりますので、注意してください。

履修登録手続きの流れは下図のとおりです。



4. 授業の履修手続き

4-4 「主題科目」の抽選について

昼間開講の「主題科目」は、教育上の効果や円滑な授業運営を図るため、受講者数の上限を決めています。

また、授業内容によりもっとも少人数に制限されている授業科目もあります。抽選登録期間終了後、「主題科目」の抽選を行います。

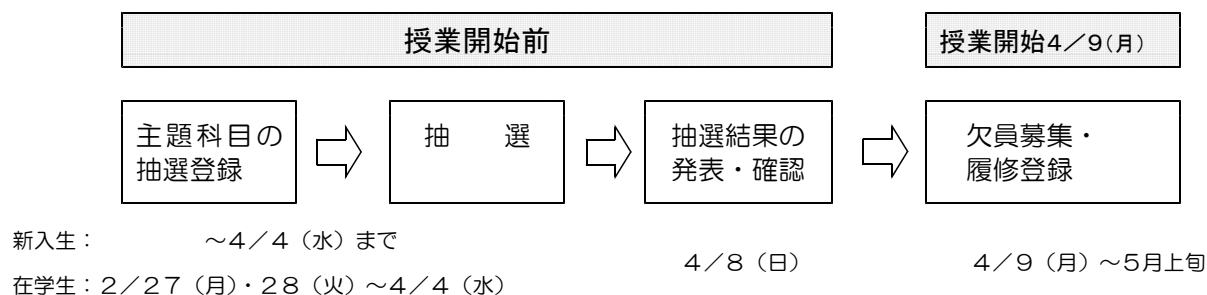
抽選結果の発表後、当選者は科目の変更はできません。

もし抽選漏れした場合は、欠員募集の科目について、所定の手続きにより、履修することができます。(所定の手続きについては、別途掲示を行います。)

主題科目には抽選を行わない授業があります。【See→31頁「(3) 各科目の履修上②主題科目」】

また、主題科目に関するQ&Aも参考にしてください。【See→42頁「よくある質問(Q&A)」】

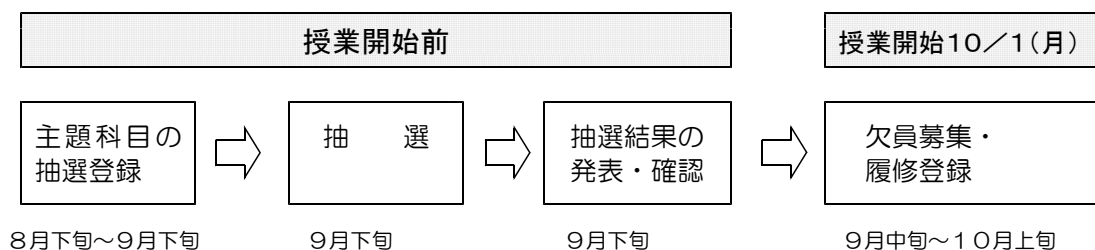
*** 平成24年度 前期 履修登録日程表 ***



注) 主題科目の抽選登録方法

- 1) 新入生の場合は、「主題科目抽選カード」を提出してください。
- 2) 在学生の場合はWeb(学外からも可)により登録してください。

*** 平成24年度 後期 抽選日程予定表 ***



注) 主題科目の抽選登録方法

- 1) 在学生全員、Web(学外からも可)により登録してください。
詳細な日程については、掲示でお知らせします。

4. 授業の履修手続き

4-5 履修登録のルール

(1) 教養教育授業時間表

昼間開講の教養教育科目を履修する場合は、『教養教育科目履修の手引・授業時間表』により、開講曜日・時限を確認してください。

(2) 全学部共通の注意事項

教養教育科目全体の履修のルールや注意事項について確認しましょう。

① 重複履修の禁止

- (1) 既に修得した授業科目を再度履修登録してはいけません。ただし、一部の授業科目では重複履修が認められています。
- (2) 同じ授業科目名の授業は、担当教員や授業内容が異なっても、重複して履修することはできません。
- (3) 同一授業時間に開講される複数の授業科目を重複して登録することはできません。
- (4) 上記(1)、(2)にかかわらず、スポーツ実習は同一名の授業科目でも履修可能です。また外国語科目の中にも重複履修できるものがあります。【See→40頁「開講授業科目一覧」】

② 昼間授業の受講について

夜間主コースの学生は、学部の定めるところにより、昼間開講の教養教育科目を履修することができます。

(3) 各科目の履修上のルール

① ガイダンス科目

各学部単位に当該学部所属学生を対象として開講されるもので、他学部の学生は履修できません。

② 主題科目

- (1) 昼間開講の主題科目は、教育上の効果や円滑な授業運営を図るため、履修人数の調整するための抽選を行います。(夜間開講の主題科目については抽選はありません。) 抽選は、各学期の開始前に行われます。抽選を行う履修対象グループごとに希望順位を付し、主題科目抽選申請を行ってください。履修を希望する新生は、前期科目分のみ、オリエンテーション時に配布される抽選カードに希望順位を記入し提出してください。

＜＜昼間開講の次の科目は抽選を行いません。シラバスをよく読んで手続きを行ってください。＞＞

① すべて英語で行われる主題科目(76頁, 89頁「昼間用の履修の手引・授業時間表」)

この講義は全て英語で行われるので、英語力について受講要件があります。基本的に「TOEFL iBT57点以上 (TOEFL PBT 490点, 又はTOEFL CBT 163点以上に相当), あるいはそれに相当する英語力」としています。

「ライフサイエンス入門」の履修希望者は、コーディネーター (大学院医歯薬学総合研究科竹居孝二教員 kohji@md.okayama-u.ac.jp) に直接、学生番号と氏名をメールで知らせてください。

4. 授業の履修手続き

履修の可否、教室の変更等については、各学生にメールで知らせています。そのため、履修開始の前に必ず上記教員にメールで連絡し、メールアドレスを知らせてください。特に、前期開講の「日本経済と政治の諸問題」、後期開講の「化学のフロンティア」、「農学の最前線」は、講義の全て、若しくは一部が学部講義室等で行われ、教室の決定は後日となりますので注意してください。

留学生の来日日程の都合上、後期開講の授業は10月9日から開始され、第1週は休講となります。

②集中講義で行われる一部の主題科目

集中講義として開講される次の授業科目は、履修抽選を行いませんが、履修人数に制限があります。履修希望者は、シラバス、掲示等の指示に従って手続きをしてください。

- (1) キャリア形成総合演習Ⅲ（専門スキルを身につける①初級）
- (2) キャリア形成総合演習Ⅲ（専門スキルを身につける②中級）
- (3) 国際貢献論
- (4) 国際貢献海外演習

③「その他」の時間帯で行われる主題科目

次の授業科目は、シラバスをよく読んで授業担当教員と相談の上、手続きをしてください。

- (1) 学生支援ボランティア実習Ⅰ
- (2) 学生支援ボランティア実習Ⅱ
- (3) 留学生支援ボランティア実習Ⅰ
- (4) 留学生支援ボランティア実習Ⅱ

③ 個別科目

個別科目は、授業時間割及びシラバスで指定された時間帯で履修することができます。

また、昼間開講の個別科目は、教育科目授業時間表及びシラバスで指定された時間帯で履修することができます。

(4) 他学部が開講する専門教育科目の履修について

各学部が開講する専門教育科目のうち、「学部開講専門教育科目一覧表」（専門基礎科目・専門科目）に記載する授業科目は、全ての学部の学生を履修対象として開講しています。

この専門教育科目を開講学部以外の学生が履修し単位を修得した場合は、当該一覧表に記載のとおり教養教育科目の授業科目として取り扱われます。履修に当たっては、次の各事項に留意してください。

- (1) 開講学部、学期、曜日・時限および教養教育科目への対応についてよく確認の上、間違いのないようにしてください。（特に専門科目は、専門科目として履修する講義番号と教養教育科目として履修する講義番号が異なりますので、注意してください。）
- (2) 授業計画等を確認する場合は、各学部シラバスを参照してください。
- (3) 他学部学生は、履修に際して授業担当教員に、他学部履修者である旨、申し出てください。

5. 受講上の注意

授業を受ける際に知っておかなければならないことを説明します。知らないばかりに授業を受けられなかったり、必要な連絡ができなかったり、学生生活上に必要な支援が得られなかったり、さまざまな不都合が生じることになります。受講上の基本的な注意については、特に確認しておきましょう。

5-1 教室

夜間主コースの授業は、文学部・法学部・経済学部講義棟を使用して開講します。

昼間開講の教養教育科目の授業は、主に一般教育棟を使用して開講されますが、学部の教室を使用する場合がありますので注意してください。

5-2 授業に関する連絡

教養教育科目に関するいろいろな連絡は、次の方法で行われます。
定期的に、必ず確認してください。

(1) 夜間主コース掲示板・教養教育掲示板

夜間主コースの授業に関する「休講」「補講」「お知らせ」等情報は、夜間主コースの掲示板に掲示します。

昼間開講の教養教育科目については、一般教育棟A棟1階掲示板に掲示します。

(2) 岡山大学ホームページ・学務システム (Web)

掲示板を補完する意味で、岡山大学ホームページと学務システム (Web) に情報を掲載します。学務システムは携帯電話にも対応しています。

■ URL <http://www.okayama-u.ac.jp/>

岡山大学公式ホームページの「在学生・保護者の方」のページにアクセスすると、学務システムへのリンクが表示されます。

■ 学務システム携帯電話URL

https://kymm.adm.okayama-u.ac.jp/kyomu/jsp/mobile/lg01/lg01_main.jsp

QRコード



5-3 教室変更

授業開始後は、受講者数の増減に伴い、教室を変更することがあります。教室変更については、夜間主コース掲示板を必ず確認してください。

昼間開講の教養教育科目の教室変更については、一般教育棟A棟1階掲示板に掲示します。

5. 受講上の注意

5-4 休講・補講

授業担当教員が、出張または病気等の理由で、担当する授業を休講する場合及びそれに伴う補講を行う場合は、夜間主コース掲示板で通知しますので、毎日掲示等を見るようにしてください。

5-5 公欠・準公欠・その他の欠席

(1) 公欠

以下の場合には、**公欠**として認められます。手続きは、**所属学部の教務学生担当窓口**で行ってください。

- ① 気象警報・交通機関の運休による欠席
- ② 親族が死亡したことによる欠席
- ③ 感染症に罹患したことによる欠席

【See→43頁「学生の通学が困難となる事由が発生した場合における授業等の取扱いについて」】

(2) 準公欠

以下の場合には、**準公欠**として認められます。手続きは、**所属学部の教務学生担当窓口**で行ってください。

- ① 裁判員制度に基づき裁判所へ出頭する場合、その他証人、参考人等として裁判所その他官公署へ出頭することによる欠席
- ② 骨髄移植のために骨髄液等の提供を行う場合等の欠席
- ③ 災害ボランティア活動に伴う欠席
(対象となる災害は公示しますので、掲示又はホームページにより確認してください。)

【See→43頁「学生の通学が困難となる事由が発生した場合における授業等の取扱いについて」】

(3) その他の欠席

公欠や準公欠とならない事由（主に、35ページの表に掲げるもの）により授業を欠席をする場合は、授業の欠席を届け出る際に、46ページに掲載している様式を使用することができます。（ただし、所属学部・研究科等により授業欠席の取扱い等が別途に定められている場合は、それに従ってください。）

この欠席届を提出する場合は、記入した後、必要に応じて関連書類を添付の上、**授業担当教員あてに直接提出してください。**

この欠席届の提出にかかわらず、成績評価に当たっての配慮を行うかどうかについては、各授業担当教員の判断に委ねられています。**この欠席届の提出により、授業担当教員による成績評価における配慮を確約するものではありません。**

なお、**定期試験を欠席する場合は、この欠席届を使用せず、36ページの「6-4 受験延期願（追試験）」に従って、手続きを行ってください。**

【欠席届を使用することができる主な授業欠席の事由】

本学の教育施設以外で実施する授業等	教育実習等	教育職員免許状又は保育士資格の取得のために必要な実習をいう。
	介護等の体験	教育職員免許状（小学校及び中学校免許）の取得のために必要な体験をいう。
	インターンシップ実習	本学の開講する授業で、単位認定を行う就業体験をいう。
	学外研修等	学部・研究科等において実施する学外研修及び学外施設見学等をいう。
集中講義		授業実施期間中における集中講義をいう。
病気又はけが		学生の通学が困難となる事由が発生した場合における授業等の取扱いについて（平成21年9月16日学長裁定）第4に規定する、学生が感染症に罹患した場合等の取扱いによらない病気又はけがをいう。
課外活動		岡山大学公認サークルの活動に伴う大会等への出場をいう。
就職活動		授業実施期間中における就職活動をいう。

【See →46☞「欠席届」様式】

【See →36☞「6-4 受験延期願（追試験）」】

5-6 レポートの提出

(1) レポートの作成

「授業科目名、担当教員名、学部、学科、学生番号、氏名」をレポートの表紙にわかりやすく記入してください。レポートが複数枚になる場合は、ホッチキスで止めて提出してください。

レポート・論文の中で他人の意見を引用する場合は、引用がわかる表示が必要です。

(2) レポートの提出期限、提出場所

- ① 提出方法については、担当教員からの指示に従ってください。
- ② 指示された提出期限を超えると、受理されませんので注意してください。
- ③ 提出場所が「一般教育棟」と指示された場合は、一般教育棟A棟2階学務部前の廊下に「レポートボックス」に提出してください。設置時間は、平日8:30~17:00です。

レポート表紙

授業科目名 授業担当教員名 テーマ 学部・学科 学生番号 氏名
--



6. 試験及び成績の評価

6-1 学期末試験・受験資格

試験日程の詳細は、前期は7月上旬、後期は1月中旬に夜間主コース掲示板に掲示します。

試験は原則として、前期・後期の学期末に行われ、授業時間数の3分の2以上出席していなければ、受験資格を失います。ただし、病気その他やむを得ない理由による長期欠席者及び休学者については、当該授業への出席日数が2分の1以上の場合に限り、審議の上受験を認めることがあります。

6-2 受験心得

受験に当たっては、次の各事項に留意してください。

- (1) 受験する学生は特別の指示がない限り、試験開始時刻の5分前までに所定の教室に入室を完了すること。
- (2) 監督者が指定した座席において受験すること。
- (3) 受験中は必ず学生証を机の上に置くこと。
ただし、学生証を紛失または忘れた場合は、監督者に申し出て、その指示に従うこと。
- (4) 受験中、机の上に置くことができるものは、学生証、筆記用具及びその他特に許可されたものに限る。それ以外の携行品はカバン等に入れて、座席の下に置くこと。また、机の棚板（物入れ）には何も置かないこと。
- (5) 携帯電話や音の出る機器は、必ず電源を切っておくこと。
- (6) 答案用紙には、所属学部名、入学年、番号および氏名等の必要事項を必ず万年筆またはボールペンで記入すること。
- (7) 試験開始後20分を経過するまでは退室できない。
- (8) 試験開始後20分を経過した場合は入室できない。
- (9) 答案用紙は、特に指定がない場合、教卓上に提出するか、又は監督者に直接手渡すこと。
自己の机の上に置いて退室すると当該授業科目の単位は認定しない。
- (10) 受験に当たっては、厳正な態度で臨み、誤解を招くような態度や不正行為は厳に慎むこと。
なお、監督者の指示に従わない者、及び不正行為があると認められた者に対しては、学則第58条により厳重な懲戒処分を行う。
また、不正行為が判明した場合は、当該行為が行われた時点において既に単位が認定されている授業科目を除いて、当該学生が当該学期に履修登録している全ての授業科目（通年で開講する授業科目を含む。）の単位は認定しない。

6-3 不正行為

不正行為が判明した場合は、当該行為が行われた時点において既に単位が認定されている授業科目を除いて、**当該学生が当該学期に履修登録している全ての授業科目（通年で開講する授業科目を含む。）の単位は認定されないだけでなく、学則第58条により厳重な懲戒処分を受けます。**

6-4 受験延期願（追試験）

病気その他やむを得ない事故等により定期試験の受験延期を希望する場合は、「受験延期願」（所定様式）に、次の書類等を添付して、法学部・経済学部夜間主コース担当窓口へ提出しなければなりません。

- ① 病気の場合は、医師の診断書
- ② その他の場合は、その事故等を証明する証明書

上記願出者で、受験延期を認められた者は、追試験の受験資格を得ることができます。ただし、追試験の実施の有無は、授業担当教員の判断によります。

追試験は当初の試験日から2か月以内（後期末試験の場合はその学年末（3月31日）まで）に受験しなければなりません。

6-5 成績の通知

学生の皆さんは、学務システム（Web）により、成績を確認することができます。

また本学では、保護者の方との連携により、学生へのより適切な修学指導を行うことを目的として、皆さんの成績（通算の単位修得状況）を保護者の方へ通知しています。

7. 学びのサポート

7-1 教科書の購入方法

教養教育科目の各授業科目ごとのテキスト、教材、参考書および販売店等については、シラバスに記載してありますが、この他、各期（前期、後期）の始めに教科書の販売店等の一覧表を夜間主コース掲示板に掲示しますので、確認の上各取扱店にて購入してください。

7-2 教科書の活用方法

大学における教科書の利用は、単に授業時間内に利用されるものではありません。1つの授業で伝えるべき内容は大変たくさんあり、限られた授業時間内に伝えることのできる範囲は、氷山の一角にすぎません。

授業では理解できないことや、疑問点を解消するために予習することが、授業を受講するのと同様に大切なことです。自習用のテキストとしても大いに活用してください。

7-3 大学内で自主的に学習したいとき

(1) 図書館を利用する

図書の貸出、閲覧をはじめ、図書館は皆さんが欲しいと思う情報を収集できる場です。



中央館 ▶

開館日・時間など図書館の詳細については、ホームページで確認してください。

- 中央館（津島キャンパス） <http://www.lib.okayama-u.ac.jp/>
- 鹿田分館（鹿田キャンパス） <http://www.lib.okayama-u.ac.jp/shikata/>
- 資源生物科学研究所分館（倉敷地区） <http://www.rib.okayama-u.ac.jp/library/index-j.htm>

(2) 一般教育棟内WAKU²スクエア1・2, パソコン室を利用する

WAKU² スクエア1 一般教育棟A棟1F▼



利用時間 8:00～20:00

パソコン室 一般教育棟A棟2F▼



利用時間 8:30～20:00

WAKU² スクエア2の利用時間 8:00～21:00

7. 学びのサポート

7-4 授業が分からない、授業について質問があるとき

(1) オフィス・アワーを活用する

オフィス・アワーとは、授業科目に関する学生の質問・相談等に応じるための時間として、教員が研究室に在室している時間帯のことです。授業担当教員のオフィス・アワーはシラバスで確認することができます。

7-5 外国語をもっと学習したいとき

授業以外で、外国語の学習を自主的に行いたい方のために、津島キャンパスに次のような施設が用意されています。

(1) イングリッシュ・カフェを利用する (津島キャンパス大学会館1階)

イングリッシュ・カフェでは、

- 1) 外国語教育センター英語教員や留学生と、会話やゲームを楽しむフリータイム
- 2) 英会話への苦手意識をなくすためのワークショップ・セミナー、
- 3) 少人数の英会話やTOEFLのレッスン
- 4) 英語に関連した自由参加型のイベント（カフェにて順次お知らせ）、などの活動を行います。

この他、英字新聞、雑誌、DVD、BS二ヶ国語放送（CNN、ABC等）も楽しめます。留学生や留学経験者などとのコミュニケーションを通じて、身近な国際交流の場としても展開し、学生の皆さんが将来、国際的に活躍するきっかけになることを願っています。

(2) 語学演習室兼自習室を利用する (一般教育棟A棟1階)

語学能力のスキルアップ支援施設として、語学演習室兼自習室を設置しています。

イングリッシュ・カフェ 大学会館1F▼



語学演習室兼自習室 一般教育棟A棟1F▼



利用時間 8:00~20:00

7-6 授業評価アンケート

このアンケートは、授業担当教員が受講学生とともに、授業をより良いものに改善していくことを目的として実施しています。アンケートは、前期及び後期の学期末に実施されますので、ご協力をお願いします。

アンケートの集計結果（教養教育科目（ガイダンス科目を除く））については、岡山大学教育開発センターホームページに掲載されるとともに学務企画課教養教育グループ及び各学部教務学生担当で閲覧することができます。

■教育開発センターホームページ

<http://cfd.cc.okayama-u.ac.jp/> → 「授業評価アンケート集計結果（学内限定）」

8. 学部開講専門教育科目一覧表（専門基礎科目・専門科目）

（専門基礎科目）

開講学部	授業科目名	講義番号	期別	曜日	時限	開講学部以外の学生が履修した場合の科目区分
法学部(夜間主コース)	憲法Ⅰ	038002	後	水	6	個別科目(人文・社会科学)
法学部(夜間主コース)	現代社会と政治	038003	前	火	7	個別科目(人文・社会科学)
法学部(夜間主コース)	民事法入門	038101	前	火	6	個別科目(人文・社会科学)
経済学部(夜間主コース)	ミクロ経済学入門	047001	後	火	6	個別科目(人文・社会科学)
経済学部(夜間主コース)	マクロ経済学入門	047002	後	金	7	個別科目(人文・社会科学)
経済学部(夜間主コース)	統計解析法Ⅰ	047006	前	火	6	個別科目(人文・社会科学)

注) 上表は、専門基礎科目のうち、開講学部以外の学生が履修し単位を修得した場合に、教養教育科目の個別科目として取り扱う授業科目です。

履修を希望する場合は、「開講学部以外の学生が履修した場合の科目区分」に注意してください。

（専門科目）

開講学部	授業科目名	他学部専門科目としての講義番号	期別	曜日	時限	教養教育科目として履修した場合の科目区分	教養教育科目としての講義番号
経済学部(夜間主コース)	開発途上国経済Ⅰ	047141	前	水	6	個別科目(人文・社会科学)	915913
経済学部(夜間主コース)	開発途上国経済Ⅱ	047142	後	水	6	個別科目(人文・社会科学)	915914

注) 上表は、専門科目のうち、開講学部以外の学生が履修し単位を修得した場合に、教養教育科目又は他学部の専門科目のどちらとして取り扱うかを選択して履修する授業科目です。

履修を希望する場合は、講義番号に注意してください。